

平成28年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書(概要)

1 学校紹介

(1) 学校の概要

本校は、房総半島の西側の東京湾に面した温暖な地域にある学校である。学級数は8クラス（特別支援学級2クラス含む）、全校生徒は214名、学区の2つの小学校を卒業した生徒がほとんどである。

(2) 学校教育目標

『心豊かで活力ある生徒の育成』



- (1) 自他を敬い 礼儀正しく 心豊かな生徒
- (2) 自ら学び 自ら考える 意欲ある生徒
- (3) 健康で明るく 心身を鍛える 活力ある生徒

2 研究主題

基礎・基本の定着を図る学力向上を目指して  
～全国学力・学習状況調査の分析を通して～

本校は「心豊かで活力ある生徒の育成」を学校教育の目標とし「活力ある学校」を実現することを目指している。経営の方針には主に「より良い人間関係」「学ぶ楽しさ」「伝えあい、認めあい、磨きあいの『3つのあい』」を掲げている。この取り組みを継続し、各教科、特別活動等を充実させる中で生徒一人一人の自己実現を図ることを目標にしている。



平成27年度の全国学力・学習状況調査の結果で、国語、数学共に基本的な学習内容の定着に問題があることがわかった。また、観点別に見ると、国語の「書く能力」、数学では「技能」「知識」に課題がある。

そのため、基礎・基本の定着を通じた学力向上に重点を置き、全国学力・学習状況調査の結果等をもとに、本校の学力学習状況を把握し課題分析を行い、学力向上に向けた取組を行うべき研究主題を設定した。

3 研究の概要

ア 全国学力・学習状況調査の結果における特徴と分析

本校の過去3年間の全国学力・学習状況調査結果から次のようなことがわかった。

《国語》

3年間の経年分析の結果、改善の様子がうかがえ、記述式の問題も正答率が上がってきている。また、漢字の読み書きの力も、毎時間での小テストや定期的に行う全校漢字コンクールの取組から、確実に身につけている。さらに、感想文や意見文など、自分の考えを書かせる活動を継続的に行っていることも数値に表われている。

《数学》

「活用」に関する問題や、「資料の活用」、「記述式」に課題が見られ、特に「記述式」の問題で、自分の考えを記入できるようにすることが今後の課題である。日々の授業において、授業改善が必要である。

イ 学力向上に成果のあった取組

○ちばっ子「学力向上」総合プランの活用

- ・「全国学力・学習状況調査」のデータ及び県総合教育センターの分析ツールを活用
- ・教科部会や研修等で利用

○授業改善

- ・各教科の授業目標の明確化
- ・授業規律の確立

各教室に「授業を始める前の約束」の掲示物を作成し配付。教卓に掲示し、授業規律の確立を目指す。



【授業を始める前の約束(教卓に掲示)】

**授業を始める前の約束**

「伝え合い」をしていくための第一歩として、以下の事を確認して授業に入ってください。

- (1) チャイムが鳴るまでに自席に着席をする。
- (2) 授業道具を机の上に準備をする。
- (3) 机が整然と並んでいる。
- (4) 教室内にゴミが散乱していない。
- (5) バックなどは、後ろのロッカーに置く。通路には置かない。
- (6) 授業を始める前の生徒の姿勢

(椅子を引いて、背すじを伸ばし、話す人の方向を向く)

- ・生徒会や専門部を中心とした生徒自らの活動で活性化
- ・校内における相互授業参観の実施

○小中連携における相互授業参観の実施

○授業外の取組

- ・定期テスト前に学習相談日を設定し個に応じた学習活動
- ・朝読書の推進及び朝のドリル学習の実施 (8:00~8:10)
  - 月、火、水・・・朝読書
  - 木、金・・・朝のドリル学習



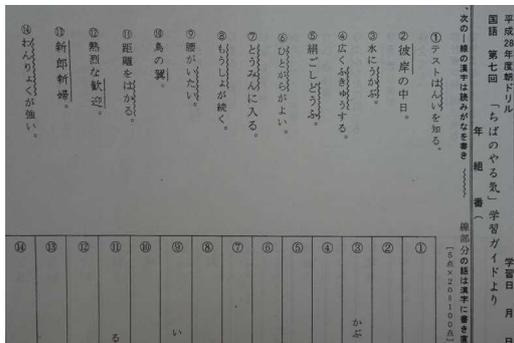
【朝読書の様子】



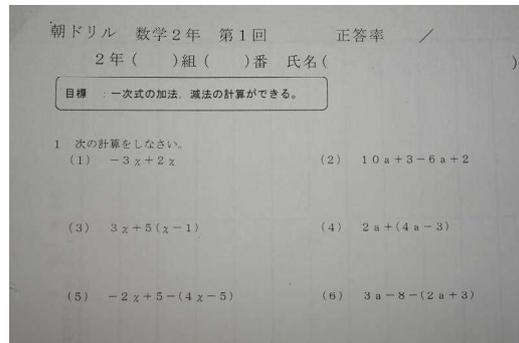
【朝ドリルの様子】

[朝のドリル学習について]

- ・ 1, 2 学期は, 国語, 数学を隔週で実施
- ・ 3 学期は月ごとに実施; 各教科とも評価テストを行い, 満点者は表彰をする。
- ・ 国語, 数学に関しては「ちばのやる気」学習ガイドを活用
- ・ 国語に関しては, 漢字の書き取りや, 古文などの視写を行い, 書く能力を育成。



【朝ドリル(国語)】



【朝ドリル(数学)】

ウ 授業改善事例

○教育課程の編成

・「学力・学習状況」検証事業等の加配の活用をし, 学習支援が有効に行えるような教育課程の編成

- [例] \*
- 1, 2 年の英語の授業では, 英語教員による T.T 指導
  - 1 年の数学では, 数学教員による T.T 指導
  - 全学年の美術, 技術・家庭科での T.T 指導
  - 特定の教科で少人数指導  
(3 年英語, 2・3 年数学で 1 クラスを 2 グループに分けて実施)
  - 特別支援学級の授業担当者の複数化

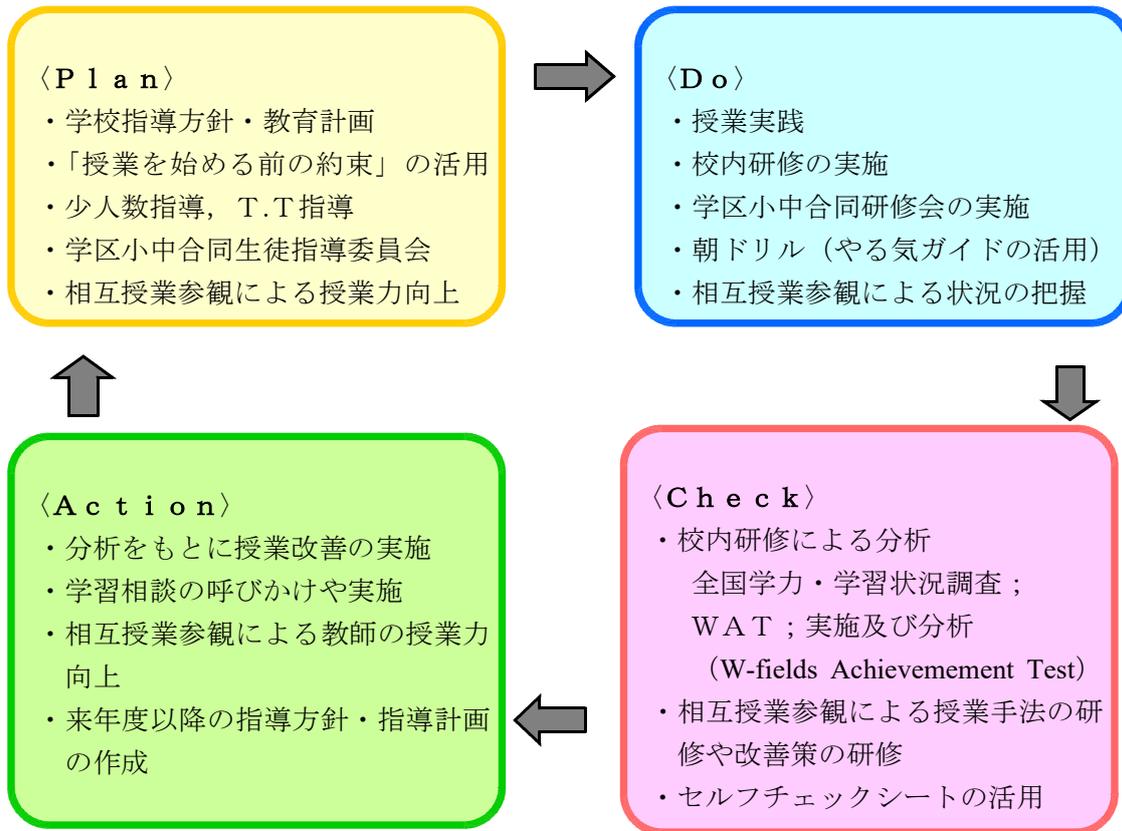


【数学の授業風景 (T T 指導)】



【技術の授業風景 (T T 指導)】

エ 検証改善サイクル（PDCAサイクル）



4 取組の成果と課題

【成果】

○授業規律

「授業を始める前の約束」を活用することにより，職員間で授業に関して共通理解を図ることができ，落ち着いた雰囲気の中で授業を行うことができるようになってきた。

○朝ドリルの取組

- ・国語の視写を行うことにより，集中して文章を読めるようになってきている。
- ・数学のドリル学習では，問題に対する取組が早くなってきている。

○教育課程の編成

加配の活用をし，有効的に学習支援が行えるようになり，落ち着いた状態で学習に取り組めるようになってきている。特別支援学級の授業担当者の複数化でも，手厚い支援ができるようになってきた。また，普通学級でも学力の低い生徒に対し個別に支援でき，学習の底上げになっている。

【課題】

○授業改善

- ・指導力を向上させるために，校内における相互授業参観の実施。
- ・学区内の小中連携における相互授業参観の実施を継続。

○家庭学習の定着を図るための工夫

- ・一日1ページ学習を全校体制で行っていく。
- ・ノ一部活動デーの放課後に学習指導の時間を確保。

○家庭生活習慣

- ・実態調査結果から，発達段階を踏まえた学級活動での指導を充実させる。